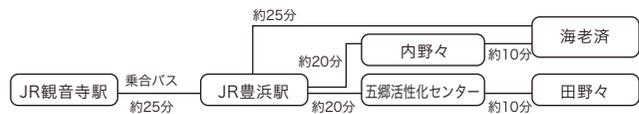


五郷へのアクセス

🚗 お車でお越しの方



🚗 公共交通でお越しの方



※乗り合いバスについて

JR観音寺駅また豊浜駅から、のりあいバス五郷高室線に乗り、運転手に目的地を告げて下さい(1日4便/どこでも乗り降り自由)。公共交通をご利用の方は、ダイヤの変更等、予めHPでご確認下さい。観音寺市 HP <http://www.city.kanonji.kagawa.jp/kurasi/30/90.html>

《お問い合わせ》

五郷活性化センター(五郷公民館)

香川県観音寺市大野原町井関341 ☎ 0875-54-5711 (無人のため、大野原中央公民館へお願いします)

(社)観音寺市観光協会事務局

香川県観音寺市坂本町一丁目1番1号 ☎ 0875-23-3933

観音寺市経済部農林水産課

香川県観音寺市坂本町一丁目1番1号 ☎ 0875-23-3931

この冊子は、中山間地域に位置する“五郷”の魅力や問題点を外部の視点から編集したものです。中山間地域の暮らしは、長らく国土を保全する公益的な役割を担ってきましたが、高齢化や過疎などにより、その多くが存続の危機にあります。どうすれば持続的な暮らしを再構築できるか。私たちは地元の方々に学び、一緒に考えながらこの冊子を作成しました。この冊子を通して、一人でも多くの方に五郷に足を運んでいただけたら幸いです。

五郷 文化は山から降りてくる (2011年10月発行/2020年改訂)

発行・企画・制作 「五郷活性化プロジェクト」
(香川大学経済学部西成研究室)

監修: 西成典久(香川大学)
企画・編集: 小西智都子・三村真衣子(ROOTS BOOKS)
デザイン: 黒島慶子(sora yama umi) イラスト: 斉藤明子
写真協力: 藤岡 紘(五郷内野々在住)
取材協力: 五郷里づくりの会+五郷の皆様

監修協力 香川県農村整備課「ふるさと水と土保全対策事業」

発行所 ROOTS BOOKS
香川の小さな出版社
〒760-0052 香川県高松市瓦町1-12-28平田ビル2F
Tel 087-887-3221
ISBN978-4-905044-03-1

五郷

文化は山から降りてくる

五郷ツーリズム「GOGOGO五郷」

文化は山から降りてくる。

香川県の西、観音寺・大野原を潤す柞田川くじがわの源流に

「五郷」という山郷があります。

山の辺に佇む5つの村落、すなわち、

井関いせき、内野々うちのの、田野々たのの、有木ありき・落合おちあい、海老済えびすくい・石砂いっさこを

総称して「五郷」と呼びます。

古くは、伊予や阿波、土佐へと通じる峠道として、

四国の様々な文物が五郷を通って讃岐にもたらされました。

山から始まるいのちのつながり。

山は水を生み、木を育て、さまざまな恵みをもたらします。

讃岐山脈に降り注いだ雨は、川を下り、里の田畑を潤します。

雨の少ない香川にあって、

五郷につくられた井関池、豊稔池、五郷ダムは、

大野原の水がめとして、農業や人の暮らしを支えてきました。

山は水を蓄え、森を育み、里の暮らしをつなぎます。

いまふたたび、山へ。

五郷にはたくさんのお宝があります。

春は山菜と山桜、

新緑とホタルの時期が過ぎれば夏の清流が迎えてくれます。

秋には様々な作物とお祭りが集落を彩り、

山々が紅葉で色付いた後は、雪化粧とみかんの冬がやってきます。

何千回、何万回と繰り返される自然の営みの中で、

五郷の人たちは、いまも自然とともに生きています。

あるものを使って、知恵と工夫で用を足し、

困ったことがあれば共に汗をかき、みんなで笑う。

それは、現代人が忘れていく山との暮らし。

未来へつなげる幸せへのヒントです。

あなたも五郷のお宝を見つけにいきませんか？



五郷の5つの幸せ

人のつながりが深い

五郷では、獅子舞や百々手^{ももて}など、それぞれの集落で行う固有の伝統行事が多く残っています。こうした伝統行事を通して、集落の人々のつながりは大変深いものとなっており、助け合いの精神が現在に継承されています。



ホタルが輝く清流の郷

最近、五郷では昔よりホタルがたくさん舞うようになりました。ホタルがたくさんいるということは、流れる川の水がきれいな証拠です。ダムの上流ならではの風物ですね。



水

人



山菜で賑わう里山

五郷では四季を通じて山の恵みがあります。春には、ワラビ、イタドリ、フキ、ゼンマイ、タケノコなど、多くの山菜で賑わい、特にタラノメの天ぷらは絶品です。

山

採れたての野菜、米を味わう

お米、タマネギ、大根、白菜、レタス、キャベツなどなど、五郷の山々が清らかにした水と土で、五郷の人達は採れたてでおいしい野菜とお米をよく食べています。

農

暮らしを彩る四季の風景

春の桜、初夏の若葉、秋の紅葉、冬の雪景色、夜には降るがごとく見える星空、時間と季節の移り変わりの中で五郷の人達は暮らしています。



住



五郷のお宝マップ



秋は
三色紅葉がミガト!
法泉寺⑫

メタセコイヤの木

ホタルが
乱舞

←愛媛県

←絶景ポイント⑮
川え江の夜景と
瀬戸内海に沈む夕日が
同時に楽しめる!

- [地図アイコン]
- 神社
 - 寺
 - カフェ・飲食
 - 駐在所
 - 雑貨屋・店
 - トーチカ
 - ダム
 - ホタル
 - ミカン
 - 山菜
 - もみじ
 - シャシャキ
 - かいもの
 - 水車

基礎情報

人口：約800人(2020年現在)

面積：約31Km²、観音寺市のおよそ4分の1を占める。

地理：香川県の西端、四国のほぼ中央に位置し、愛媛県四国中央市と徳島県三好市に隣接。井関、内野々、田野々、有木・落合、海老済・石砂の5つの地区から成る。

歴史：中世には人が暮らしていたとされており、1600年代前半に5つの村となっていた。明治期までは、五箇山とも呼ばれていた。

主な産物：みかん、米、タマネギ、シイタケ、シャシャキ、ハナマツ、サカキ、手作りコンニャク、五郷水車米

主な観光スポット：五郷水車、井関池、豊稔池ダム、五郷ダム、雲辺寺ロープウェイ、法泉寺の紅葉など

井関 のお宝

時代は変わっても、 元五郷小学校は五郷の交流拠点



昔も今も、人が集えばみんな笑顔

地域みんなが、先輩・後輩です。

2月のある日、五郷活性化センター(元五郷小学校)を訪ねると、「よいしょっ」「はい」「よいしょっ」「もういっちょ!」と威勢のいいかけ声とともに、餅つきが行われていました。今日は年に一度の「五郷地区文化展」。まだまだ現役!とおじいちゃんが杵を振るえば、おばあちゃんやお母さんたちが手早く丸めてあんこもちに。子どもたちも“もち屋さん”よろしく、おもちを配って歩きます。元小学校の施設を利用した館内では、切り絵や手芸品など自慢の作品が展示され、食堂ではかっぽう着姿の女性たちがキビキビと働いています。しかも、ここにいる人たちの大半は、み～んな元五郷小学校の卒業生。おじいちゃんも、おばあちゃんも、お父さんも、お母さんも、みんな同じ学び舎で学んだ先輩後輩なのです。

「昔は海老済に分校があって、始業式と理科の実験の時だけはここ(本校)まで通ってくるんや。本校は生徒がたくさんいて賑やかだったな」と語る70代の男性。また30代の女性も「PTAに行くと父兄同士も同級生が多いから、運動会をやる時の団結力が違う」と懐かしそうに話します。

五郷小学校が誕生したのは明治10年。最も多い時は全校児童が1000人もいましたが、生徒数の減少により平成18年、廃校となりました。あれから5年。学校はなくなったけれど、同窓生の絆が消えたわけではありません。ふたたび、五郷の人たちが世代を超えて集える交流拠点となるよう、4年前から新たに「五郷地区民の集い」も始まりました。たくさんの笑い声が響く日を心待ちにするかのように、今年も校門前の大きな桜が満開の花を咲かせます。



樹齢80年を越える校門の桜。子どもたちを見守ってきた旧五郷小学校のシンボル

地元のロコミ

五郷山公園のツツジや桜は見応えあり!

イシイうどんでは、郷土料理のだんご汁を食べれるよ

納涼祭は、毎年8月第1日曜日に、旧五郷小学校運動場と五郷活性化センターで行われます。そうめん流し等のバザーや、盆踊り・花火で盛り上がります。



いせき 井関ってこんな所

五郷の玄関口となる集落で、江戸時代には阿波や伊予との往来を管理する番所が設けられていた。五郷が栄えていた頃には、役場、診療所、郵便局、お店があり、五郷銀座とも呼ばれていた。五郷地区の中心的存在であった五郷小学校があり、2006年の廃校以来、小学校校舎は観音寺市の教育センターとして活用されている。大野原扇状地の要に位置しており、下流の農地を潤す井関池がある。瀧宮神社を中心として、のどかな農村風景が広がっている。

他にもあるよ! 井関のお宝



① 五郷活性化センター (元旧五郷小学校)

五郷コミュニティの中心拠点、文化祭や音楽祭など地区行事もさかん。春には、珍しい黄色い桜が楽しめる。



② 井関池

江戸初期、西島八兵衛が手掛けた溜池。井関池によって大野原は農地へと変貌した。背後に控えるのは雲辺寺山。



③ 瀧宮神社

鎮守の森には、幹囲2m以上のツブラジイなど巨樹が多数。秋祭りには、獅子舞や子ども太鼓で賑わう。



④ 夢ハウス山里

活性化センター前にある古布や五郷の材木を使った手づくり小物のお店。いろんな五郷話が聞けるのも嬉しい。



⑤ 孫嫡子神社

全国でわずか10社、四国では唯一の天然痘を癒す神社としてあがめられている。

内野々のお宝

こもけだんごはふるさと一味



五郷の食卓。鯛の身を漬して焼き味噌と混ぜた汁をご飯にかけた「さつま」と「こもけだんご」のお汁は郷土料理。それに特産の三豊なすを使ったはさみ蒸しとカブの香り漬けを添えて

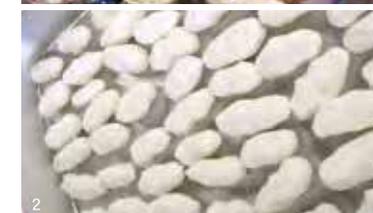
お米に感謝していただく

見晴らしのいい傾斜面に広がる内野々地区は、五郷の中でも日当たりがよく農業のさかんな地域。田畑への感謝は、祭りや風習を通して今も暮らしの中に息づいています。例えば1月2日の「**鍬初め**」は、メザシの頭や柿を田んぼに備えて1年の豊作を願うもの。また15日の「**とうど祭り**」では、朝早く河原などに集まって、しめ飾りや門松を焼き無病息災を祈ります。特に内野々では、その日の朝の雑煮は男性がつくるんだとか。こうした風習はかつては五郷のどの地区でも見られましたが、今では内野々のみになりました。

「私たちがお嫁に来た頃は、お米はごちそうだったんよ」と話すのは、内野々の藤岡テル子さん。ふるさとの忘れられない味として「こもけだんご」の話をしてくれました。

「稲作がさかんになったのは昭和40年ぐらいかしらね。それまではご飯と言えば、麦とお米が半々。でも子どもが産まれた時は、お祝いに米粉でだんごをつくります。“子をもうける”で“こもけだんご”。お乳がよく出るようにと、もち米入りの米粉でだんごをつくり、きな粉をまぶして、ご近所さんがお祝いに持っていくんよ。上には南天の葉を7枚のせるの。南天は防腐剤の意味もあったんやろうね。それを一貫（約3.7kg）分のお米が入った箱にのせて。一方、お祝い返しには、“名付けだんご”と言って、米粉のだんごとお赤飯を配ります。いつもは小麦粉でつくるだんご汁も、お母さんになるとこもけのだんごが入る。お姑さんにつくってもらって、子どものためになって一生懸命食べたもんです。五郷の女性ならみんな、こもけだんごの味を知っとるよ」。

「こもけだんご」のつくり方を教わってきました！



1: 教えてくださったのは5地区のお母さんたち
2: たくさんだんごをつくりました。
3: この日は、ズイキ(里芋の茎)の干物を具に。昔はこれをかんぴょう代わりに使っていたそう。

地元のロコミ

6月になると村池付近に
蜚が現れるんよ



1月2日の「**鍬初め**」では、
田んぼにめざしや柿をお供えます

西山と北尾と呼ばれる地区から見渡す
瀬戸内海や観音寺の夜景は絶景



夕日もきれい！

西向観音堂は、個人が管理している観音堂ですが、毎月旧暦17日には、多くの方がお参りします。



うちのの
内野々ってこんな所

緩やかな傾斜地に広がる集落で、大野原を前景として伊吹島と燧灘に沈む夕日が眺められる絶景ポイントが多い。四国八十八箇所の札所・雲辺寺まで行くロープウェイがあり、ロープウェイ駅では地元の産品が一部販売されている。明治17年、内野々村の藤川和之助がミカン栽培を手掛けたことが契機となって、五郷にミカン栽培が定着した。近年、内野々の三部神社にて、太鼓台を担ぐ秋祭りが始められている。

他にもあるよ！内野々のお宝



6 雲辺寺ロープウェイ

瀬戸内の海と山を独占！四国霊場最高峰の雲辺寺へ。山頂には香川唯一のスキー場がある。



7 みかん

五郷特産のみかんの段々畑が続く風景はなんとものか。5月には辺り一面甘い花の香りに包まれる。



8 トーチカ
(雲辺寺ヶ原史跡広場)

日清・日露戦争中の山砲の射撃場跡。乃木希典の隊もここで訓練した。



9 内野々三部神社

秋祭りでは集落を練り歩いて太鼓台を奉納。お菓子等を投げる「福投げ」は他の集落からも参拝に訪れる。



10 観音堂

集落では「お観さん」と呼んで親しまれている。8月10日に「七観さん参り」が行われ、お接待をしてくれる。

宝泉寺で発見!

田野々のお宝

雨乞い踊りに込められた水への祈り



田野々雨乞踊保存会のメンバーは現在40人。豊稔ダムにかかる橋の欄干には、雨乞い踊りの様子が刻まれています

三豊平野の水瓶に400年伝わる

五郷には、井関池、豊稔池、五郷ダムと3つの水瓶があります。古くは江戸初期、西島八兵衛によって井関池が築造され、これによって大野原の開墾が始まり、県内随一の農業地帯として発展してきました。

そんな五郷の水瓶の一つ、田野々地区の豊稔池が造られたのは昭和5年のこと。当時、五郷の人たちは、老若男女を問わず総動員で堰堤工事に協力したそうです。

雨の少ない香川県では、水は文字通り“いのちの水”。田野々は稲作が盛んな地域ですが、山が浅いため少しの日照りでもすぐ干ばつが起こり、人々を苦しめていました。いよいよ水がなくなり、田んぼが白くひび割れてくると、「土瓶水」と言って、大切な井戸水を稲の根本に一株ずつかけてまわったと言います。そうした水への並々ならぬ願いが、豊稔池を実現させたのでしょう。

田野々には、人々と水との関わりを色濃く伝える踊りが残されています。「田野々雨乞踊」は、およそ400年前、薩摩法師が伝えたと言われる雨乞いの踊り。日照りが続くと、慈雨を願って地区の代表者らが夜中過ぎから高尾山に登り、竜王社へ籠って踊りを納めます。踊りは、「けいご」と呼ばれる歌い手を中心に浴衣にたすき姿の太鼓打ち、花笠をつけた踊り手たちが輪になって踊ります。昭和9年から一時途絶えていましたが、昭和47年に地元の人たちの尽力で復活し、香川県の無形民俗文化財に指定されました。



上：昭和46年5月20日、竜王社への奉納の様子
(出典「雨乞踊今昔と保存会春秋」田野々雨乞踊保存会)

下：高尾山山頂の竜王社
(写真提供：田野々雨乞踊保存会)

たのの 田野々ってこんな所

豊稔池ダムの上流、山中にあって盆地状の平野にたたずむ桃源郷のような集落。その昔、弘法大師によって大伽藍が営造されようとした伝説が残っている。法泉寺では、毎年もみじ祭りを催しており、色鮮やかな3色もみじを目当てに多くの見物人で賑わっている。また、毎月第3日曜には田野々の入り口付近にてやまびこ市が開かれており、地元産品が販売されている。ダムの上流にあることから、水の流れが清らかで、近年ではホテルの舞いが名物となっている。

他にもあるよ！田野々のお宝



11 豊稔池石積式アーチダム

干害対策として1930年に完成。同方式のダムでは日本最古。夏の「ゆるぬ抜き」は圧巻。国の重要文化財。



12 法泉寺

11月の「もみじ祭り」では、1本の木が3色に染まる3色もみじが見事。「田野々雨乞踊」の伝承にも尽力。



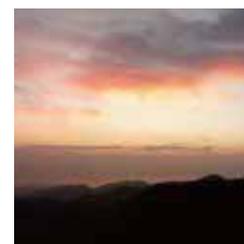
13 鎌倉神社

田野々の氏神様を祀る。3月には子どもが矢を射り、その年の豊作を祈る「百々手」が行われる。



14 山びこ市

豊稔池堤前広場で、田野々で採れた野菜や果物、手作りおはぎや大判焼などを販売。(毎月第3日曜9時~15時)



15 愛媛県境から見る夜景

田野々の集落の最奥、愛媛との県境から見る川之江の夜景は絶景。海に沈む夕日にも息を飲む。

地元のロコミ

「田野々米」は、酒米として川鶴酒造でも使われとるんよ

その昔、空海が田野々に大伽藍を営造しようとした逸話も

「喫茶まんさく」に行くと、田野々のいろんな話が聞けるよ

三部神社で発見!

有木・落合 のお宝

みんな“平”さんです



45人中34人が“平”さんです



歴史が現代に息づく平家の郷

「今から800年以上前…」と、有木の昔話をしてくれたのは平野善幸さん。ちなみにそのお隣は平口さんで、そのまた隣は平岡さん…?! そう、有木・落合は住民の9割が名字に“平”がつく不思議な地域。これは源平壇ノ浦の合戦で敗れた平有盛が、有木に隠れ住んだという言い伝えによるもの。村人の歓待に感謝した有盛が、お礼に「平」の姓を許したと言います。有木は全戸数9軒と五郷の中では一番小さな集落ですが、結束力は五郷イチ。ご先祖たちの残した平家の伝説は、今なお彼らの暮らしの中に事実として残っているのです。

例えば、地元の人から“ありもりさん”の名で親しまれている三部神社には、有盛が逃げ延びた時に携えていたという名剣「小烏丸」や陣太鼓が伝えられており、阿弥陀堂には、阿弥陀如来坐像が納められています。また、上屋敷、中屋敷、下屋敷、烏帽子屋敷など、武将の住居を示す地名や、神子谷(巫女谷)、鞍掛松といった平家にまつわる地名がいくつも残されており、徳島との県境にある曼陀峠の名も、平家の落ち武者が峠まで逃れてきて、一族を供養するために曼陀羅供を営んだのがなまって曼陀になったとか。戦後になっても、源氏の白旗を忌み嫌い、鶏やウサギなど白い家畜は飼わず、衣類や祭りの幟も白は避けて色物を使っていたという徹底ぶり。残念ながら、小烏丸は盗難により紛失してしまいましたが、“平”の名は今も有木の人たちの誇りの証なのです。



上：平有盛が伝えたと言われる宝の1つ。高さ52.5センチ。県の指定有形文化財。(出典：『香川の文化財』香川県教育委員会)

中：三部神社の本殿

下：三部神社の拝殿。ここで地区の方が定期的に集まり、寄り合いが開かれている。

有木・落合ってこんな所

時は源平合戦の頃、平有盛が隠れ住んだことからこの村の歴史が語り継がれている。五郷ダムの上流、山深い山中の西斜面に有木集落は存在している。落合集落は五郷ダムの下流にあり、前田川と柞田川が落ち合う谷間に佇んでいる。山深い土地柄、ワラビ、タケノコ、ゼンマイ、イタドリなど豊富な山菜で溢れている。4月の第1日曜には、有木で採れたよもぎを使い、雲辺寺でよもぎもちのお接待をしている。

他にもあるよ！有木・落合のお宝



16 五郷ダム

1964年につくられた香川県所有の多目的ダム。春は桜やツツジ、秋は紅葉が美しい。



17 有盛橋

五郷ダムにかかる赤い有盛橋は有木落合のシンボル。フナやコイを釣りに来る人も多い。



18 三部神社

「ありもりさん」の愛称で親しまれている平有盛ゆかりの神社。平家伝来の陣太鼓などが残る。



19 お接待

春、お遍路さんへのお接待として、地元のよもぎを使ったお餅を雲辺寺で振る舞う。(4月第1日曜)



20 イノシシ肉

イノシシ肉は山のごちそう。ぼたん鍋やバーベキュー用に通年販売。ヒラカツ猪肉販売所 0875-54-4984 (要予約)

地元のロコミ

前田川ではホタルや魚釣りが楽しい。

阿弥陀さんの祭りでは、夏バテ防止にタラ入りのおにぎりを食べるんよ。

曼陀峠で発見!

海老済・石砂のお宝

こう見えて、じつは宝の山です。



徳島県との県境の谷間に佇む海老済集落。

一つ一ついいいに仕分けられたら、ほら、見覚えのあるかたち。

シャシャキも、ハナマツも、山菜も、みんな山からのいただきもの

見渡す限り山が重なりあう石砂の山奥。まず山の神様にお参りして、さらに山道を進むと、シャシャキ(ヒサカキ)畑が見えてきました。シャシャキとは、仏様に供える枝もののこと。海老済・石砂地域は、五郷の中でも一番山奥に位置し、シャシャキやハナシバ、サカキやハナマツなどの枝ものを栽培しています。

「他の地区でもつくったけど、やっぱりここのシャシャキが色がええゆうて。この辺りは、夏でも昼過ぎにはもう日が陰りますからな。日が当たらんお陰で葉が焼けるのだと思います」と話すのは、生まれも育ちも海老済という石井敏さん。五郷の人たちさえも「山」と呼ぶこの地域にあって、石井さんは山の大ベテラン。一緒に山道を歩くと、「ここはさっきまでイノシシがおった。匂わん?」「この穴は1ヵ月前に掘ったやつ、これは1週間くらい前かな」と、五感で山と会話をしているよう。また「山には至る所に神様がおられる」と話す石井さん。山中には、海老済や田野々などそれぞれの集落の方を向いて、山の神様を祀った小さな祠が並んでおり、代々、山で働く人たちがお守りしてきたとのこと。他にも大木を神様として祀ったりもしていたそうです。

「家族は山を下りたけど、わしは自分が生まれ育ったところが好きやから、毎日山に帰ってくる」という石井さんのおすすめは、山萌ゆる新緑の頃。ワラビ、ゼンマイ、フキ、イタドリ…などの山菜に加え、川へ行けば春はアカマツ、夏はウナギや川エビなどがとれ、まさに食の宝庫。すべては山からのいただきもの。神様に抱かれた豊かな自然があればこそその山の幸です。



上: こんびらさんが祀られているという「山神社」

下: 春になると一気に山がにぎやかになる

地元のロコミ

「狩り場焼」と言えば、五郷ではイノシシ肉のバーベキューのこと。美味しいよ!



夜は空を見上げて! 降るように見えるけん

神社の由来等を日本語と英語で表示した棒賀神社の手作り看板。ぜひ見てみての!



海老済・石砂ってこんな所

五郷ダムの上流、徳島と愛媛の県境に位置し、徳島に抜ける曼陀峠手前の谷間に集落が広がる。古くからお遍路さんや山越える旅人の通り道で、1980年までは五郷溪温泉もあった。谷間にあることから日差しが届きにくく農業には不向きであるが、古来から神仏に供えるシャシャキやシキビ、ハナマツの栽培が盛んである。山菜も多く、春にはワラビやタラノメ、夏にはミョウガが採れる。畑を荒らすイノシシを狩猟し、一部ではシシ肉の販売もしている。

他にもあるよ! 海老済・石砂のお宝



21 棒賀神社

秋祭りには地区の「青年衆」が獅子舞を披露する海老済の神社。境内のイチョウも見事。



22 前田川のホタル

海老済集会所近くの前田川では、6月頃になるとホタルが乱舞。夏にはカジカ蛙の声も。



23 石砂観音様

毎月17日に住民が集まって般若心経を唱えていたが、現おりょうぐには「御霊具」をお供えしている。紅葉が見事。



24 犬神大明神

その昔、流行病の祈祷に犬を生け贄にしたとか。2年に一度、旧暦11月に霜月祭りが行われる。女人禁制。



25 曼陀峠

標高約600m。古来から讃岐と阿波を結ぶ交易の道として賑わった。曼陀トンネル横から遊歩道あり。

五郷のこれから

いま、五郷の“つながり”が問われています。

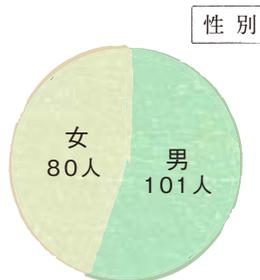
●過去5年間で、2つの「五郷」が消えました。

1つは、「地図上」の五郷。2005年10月、大野原町と観音寺市との合併により「五郷」という地名はなくなりました。もう一つは、「五郷小学校」の廃校です。2006年3月、児童数の減少により131年の歴史に幕を閉じました。五郷小学校は、単に教育機関としての場だけでなく、5つの地区の人たちを結びつけるコミュニティの中心であり、PTAや運動会など、小学校に通う子どもたちを通じて培ってきた大人たちの交流の場でもありました。

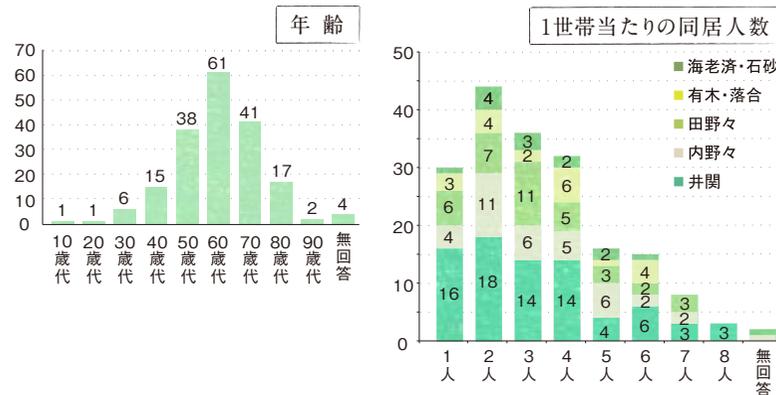
地名とは、単に土地の「呼び方」を表すだけでなく、「共同体」としての目印であり、そこに暮らす人たちのアイデンティティでもあります。2つの「五郷」の消失によって問われているのは、五郷という“つながり”そのものなのです。

そこで私たちは、五郷に住んでいる人たち(=五郷人)に、「五郷ってどんな地域なのだろう」「五郷はこれからどうすべきなのだろう」と問いかけてみました。それは、住民ひとり一人の豊かさの基準を見直すことでもあります。モノの豊かさからこころの豊かさへ。人と人との関わり方が問われている今だからこそ、みんなで考える必要があるのかもしれない。

アンケート結果 有効回答数 186 / 280世帯



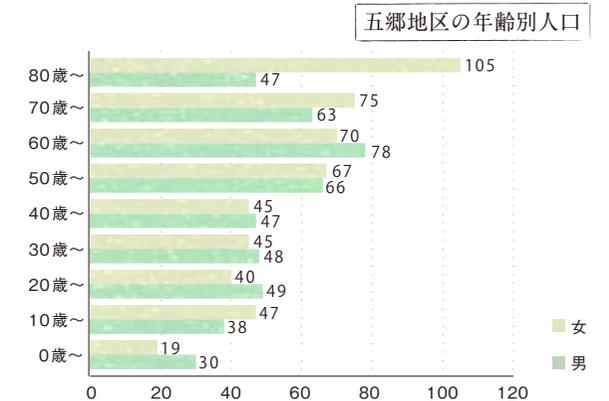
※ここで用いているデータは、香川大学経済学部西成研究室が五郷地区全世帯を対象として2010年12月にアンケート調査をした結果の一部です。



(1) 五郷の現状

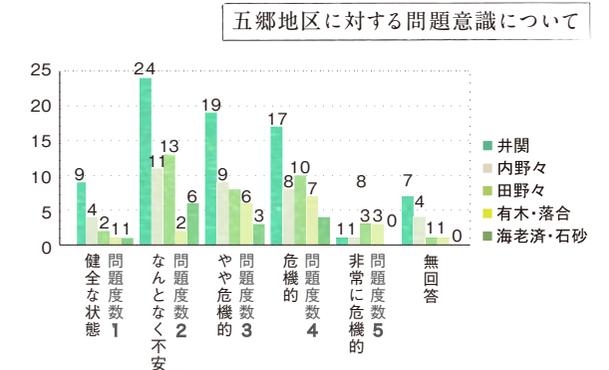
●五郷人の3人に1人は65歳以上

現在、五郷地区の人口は979人(2011年1月時点)。ちなみに、大正時代は約1500人、戦後(1950年)は2000人に達しており、ピーク時のおよそ半数以下まで減少しています。また、65歳以上の高齢者の割合は35.6%。香川県25.8%、全国平均23.1%と比べると、かなり高齢化の進んだ地域と言えます。国の推計によれば、25年後には香川県の人口は100万人から80万人に減ると予測されていますが、五郷地区はさらに速い速度で人口減少が起きると考えられます。

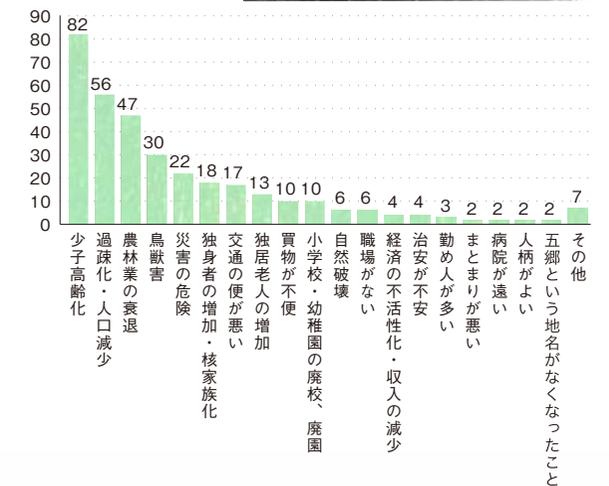


●五郷人は現状を「やや危機的」と感じている

五郷地区に対する問題意識度について聞いたところ、平均は2.84で「やや危機的」。しかし、有木落合、海老済、田野々では「危機的」(問題意識度4)の割合が多く、平野部から遠い集落ほど危機感が高いことがわかります。また、具体的な問題として一番多かったのは「少子高齢化」、続いて「人口減少」「農林業の衰退」。その背景には、林業やミカン栽培といった五郷の基幹産業の衰退があります。五郷の経済を担い、子どもを産み育てる世代が、住みたくなくなる環境をつくるにはどうすればいいか。手遅れになる前に、今こそ真剣に考える必要があります。



具体的にどのような問題があるか



(2) 五郷の資源

● 観光だけではわからない

「住み心地のよさ」が五郷の魅力

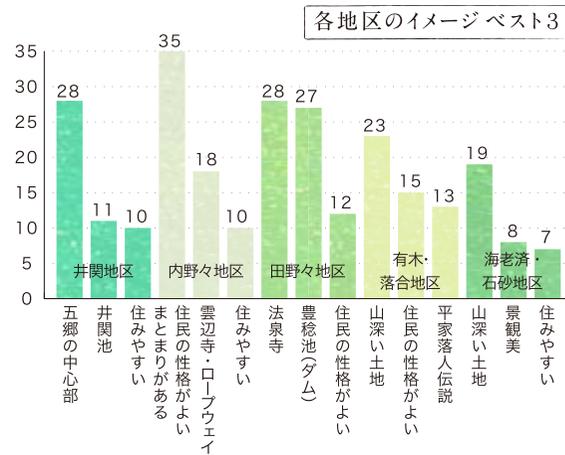
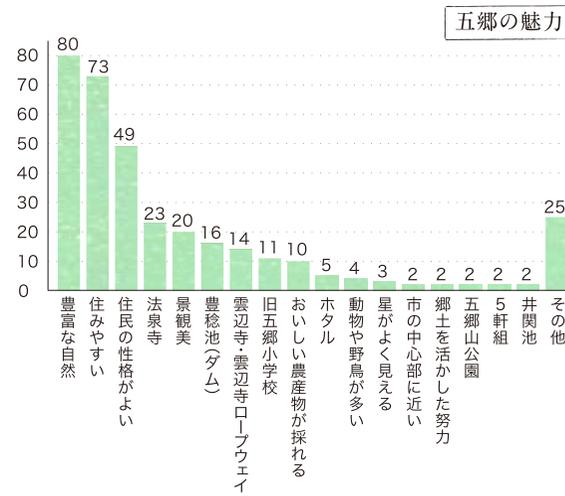
五郷人が感じている五郷地区の魅力について聞いたところ、豊稔池ダム、雲辺寺ロープウェイといった観光スポットを抑えて、「豊富な自然」や「穏やかな生活環境」といった“住み心地”が圧倒的な支持を得ました。また、「人柄がよい」「人の和」など、住民の気質や助け合いの精神をあげる人が多いのも特徴の1つです。

● 五郷と言っても「五郷五色」

五地域それぞれのイメージを聞くと、井関は「五郷の中心地」、内野々は「団結力」、田野々は「お寺やダム」、有木・落合と海老濟・石砂はどちらも「山深さ」ですが、「平家伝説」や「景観美」など少しずつ個性の違いが浮かび上がってきました。

● 五郷人は「自然」を楽しむ達人

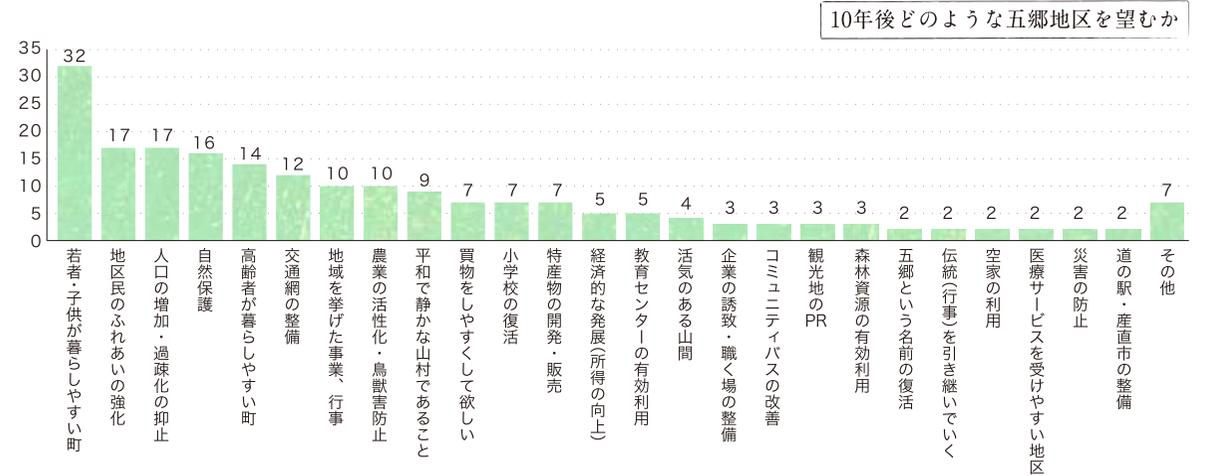
五郷人おすすめの場所や風景では、雲辺寺・ロープウェイや豊稔池、ホテルや朝日・夕日など、その大半を野外で楽しむものが占めました。自然が相手だからこそ、アイデア次第で楽しみ方は無限大。五郷に眠る潜在的観光資源をいかに活かすかが、知恵の見せどころです。



(3) 五郷の未来

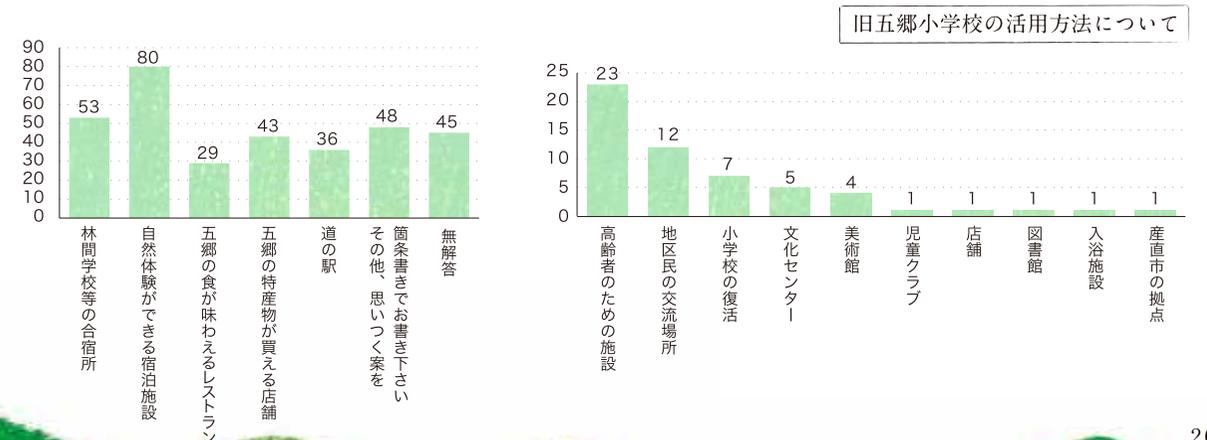
● 五郷人が描く五郷の近未来像は「若者・子どもが暮らしやすい町」

10年後、五郷がどんな地域になってほしいかをたずねたところ、最も多かったのは、「若者や子どもたちが暮らしやすい町」。続いて少子高齢化や過疎化抑止など「暮らし」に関する意見が多く寄せられました。またそれらを実現するためにも「交通網の整備」や「農業の活性化」「特産品の開発」など、経済・産業の活性化が望まれています。



● 元五郷小学校の活用について

元五郷小学校の校舎は、現在、観音寺市の教育センター(不登校生徒の学びなおしの場)と五郷の地域活性化センターとして利用されています。せっかくの立派な校舎を有効活用する方策についてお伺いしたところ(選択式)、「自然体験ができる宿泊施設」「林間学校等の合宿所」など、観光や教育を目的とした宿泊施設という意見が多く集まりました。またその他の中では「高齢者のための施設」が最も多く、いかに収益性を見込みつつ、コミュニティ拠点として再生していくかがカギを握ります。



五郷の旬ごよみ

イベント・祭り

| 日時 | イベント名 | 場所 | 内容 |
|----------------------|--------------------------------------|---|--|
| 1月 1日正午～ | さいとうごまきとう 柴燈護摩祈禱 | うんべんじ 雲辺寺 | 護摩の火で汚れや煩惱を焼き清める。 御幣を買えば、誰でも火渡り参加可 |
| 2日 | くわど 鎌初め | 内野々 | 豊作を祈って恵方の畑に鎌を入れ、 めざしの頭やカキ、米や餅を備える |
| 3日 | 初春福餅投げ | 雲辺寺 | 餅投げの餅には木札が入っており、 番号によって景品が当たる |
| 15日 | とうど祭り | 五郷地区各地 | 無病息災を願ってしめ飾り等を川原で焼く。 内野々では当日の朝、男が雑煮を作る習慣も |
| 2月 第一日曜 | 五郷地区文化展 | 五郷活性化センター | 盆栽や手芸など日頃の成果を発表。餅つきも行われる |
| 3月 | 百々手祭り | たきのみや 瀧宮神社(井関) 鎌倉神社(田野々) 棒賀神社(海老済) | 五穀豊穡や所業繁栄を願い、男児が的に向かって 200本の弓を射る |
| 4月 | お花見 | 五郷山公園 元五郷小学校 | 井関池の隣にある公園。お花見や散歩に人気のスポット 「校門の桜を守る会」総会と花見 |
| 6月 | ホテル | 内野々三部神社の近くの 池、田野々、海老済五郷溪 温泉跡～石砂付近 | 水がきれいな五郷地区では、あちこちでホテルが乱舞 |
| ～7月 | 豊稔池のゆるぬき | 豊稔池 | 地上30mの堰堤から毎秒4トンもの水が放たれる光景は圧巻 |
| 8月 第1日曜日 | 五郷ふれあい納涼祭 | 五郷活性化センター | 盆踊りやバザー、カラオケ大会など、地元の夏祭り |
| 9月 5日 | 田野々雨乞踊り | 田野々 | 約400年続く踊りを復活。県無形民俗文化財 |
| 第4土曜日 | もりのコンサート 歌声喫茶 (お月見コンサート) | 旧五郷小学校体育館 | 中秋の名月の下、みんなで歌を歌い、月見を楽しむ |
| 10月 第1土・日曜日 | | 内野々 / 内野々三部神社 | ちょうさ |
| 第2土・日曜日 | | 井関 / 瀧宮神社 | 獅子舞、子どもちょうさ |
| 第2土・日曜日 | 秋まつり | 有木・落合 / 三部神社 | 獅子舞 |
| 第3土・日曜日 | ※秋まつりは毎年 スケジュールが変更に なる可能性があります | 田野々 / 鎌倉神社 | ちょうさ、獅子舞 |
| 第3土・日曜日 | | 海老済・石砂 / 棒賀神社 | 獅子舞 |
| 11月 | もみじまつり | 法泉寺 | 「三色もみじ」が名物。 琴の演奏や地元野菜の販売、書の展示など |
| | 五郷地区民の集い | 五郷活性化センター | いも炊きを楽しみながら、子どもから大人まで集まる |
| 12月 中旬～ 3月中旬 | スノーパーク雲辺寺 | | 県内唯一のスキー場。標高920mからの瀬戸内海は絶景 |
| 通年 毎月第3日曜日 9時～15時 | 山びこ市 | 豊稔池堤前広場 | 野菜や果物、盆栽、米など、田野々で採れたものを販売 |

旬の味覚

| | 山の幸 | 川の幸 | 里の幸 |
|----|--|--------------------------------|---------------------------|
| 春 | わらび ぜんまい いたどり たら芽 山椒 ふき たけのこ うど 山うど つくし ふきのとう よもぎ 野びる せり | アカマツ(川魚) ハゼ | たまねぎ 五郷の常菜 |
| 夏 | みょうが やまもも 野甘草 | ウナギ ハヤ 川エビ(4月～10月) アブラハヤ | 梨 皮はお風呂に |
| 秋 | あけび 椎茸 自然じょ むかご 松茸 栗 | 沢ガニ モズク カニ | みかん(11～2月) 柿 米(田野々米) 梅 |
| 冬 | いのしし | フナ コイ | |
| 通年 | シャシャキ / シキビ / 花松 / 三叉 | | |

五郷のお店

五郷わらび会

イタドリと手作りコンニャクが五郷名物に

「5つの地区の人たちが気軽に集まれる場を」と佐伯真誌さんが2007年に発足した「五郷わらび会」では、五郷の山の幸を使って、春はイタドリの加工品、秋はコンニャクを作り、地域のイベントや産直市場などで販売しています。五郷に自生するイタドリは、収穫後、丁寧にあくを抜いて下処理し、冷凍保存で提供しています。またコンニャクは、会員が栽培したコンニャク芋でつくった100%メイドイン五郷。手作りならではの独特の歯ごたえが人気です。

《お問い合わせ》TEL:0875-54-4268(わらび会代表 佐伯真誌さん)



山から採ってきたイタドリ



皮ムギはみんなと一緒に



コンニャク芋の畑



コンニャクを十分に茹でる

● お食事

- **イシイうどん** (TEL 0875-54-4266)
郷土料理のだんご汁が名物。(営)10時～19時 (休)日
- **喫茶まんさく** (TEL 090-7783-3747)
ご主人は絵手紙作家。飲物や手づくりケーキなど。
(営)日曜のみ9～17時(他の日は要予約) 11/10～30は毎日営業。
- **雲辺寺ロープウェイ** (TEL 0875-54-4968)
山麓駅乗り場にうどん店や売店などを併設。
(営)7時20分～17時(12～2月は8時～) (休)年中無休

● お買い物

- **夢ハウス山里** (TEL 0875-54-3891)
古布などを使った民芸品店。(営)10時～18時 (休)月
- **山びこ市**
五郷で採れた農作物を販売。(営)毎月第3日曜 (休)8時半～15時
- **ヒラカツ猪肉販売所** (TEL 0875-54-4984)
ぼたん鍋やバーベキュー用にイノシシ肉を販売(要予約)。

● お宿

- **民宿 藤岡** (TEL 0875-54-4418、携帯 090-8697-2660)
野菜や梅の収穫体験も出来る。